

弟子の掟①

シリーズ～弟子道～

2011/6/26





マタイ5～7章

- 「山上の垂訓」と呼ばれるこの箇所は、「神の国の法律」とか「新しい律法」と呼ばれる
- しかし、より厳密にタイトルをつけるとすれば、「弟子の掟」と、するべきである
 - 「イエスはこの群衆を見て、**山に登られた**。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。」＜5:1-2＞
- モーセがシナイ**山に登って**十戒を授かったように、イエス様は新しいモーセとして新しい律法を授けられる



幸せな弟子になるために

- 「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」
 - 霊の豊かさを求める
- 悲しむ人々・柔和な人々・義に飢え渴く人々・憐れみ深い人々・心の清い人々・平和を実現する人々・義のために迫害される人々＜3～11＞
- 「あなたがたは地の塩である。」「あなたがたは世の光である。」＜12～14＞
 - この世によい影響を与え続ける



イエス様と律法＜5:17-20＞

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っ**て**はならない。廃止するためではなく、**完成するため**である。はっきり言っておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大きい者と呼ばれる。言っておくが、**あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ**、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」



イエス様の使命

- 「律法や預言者」：ヘブライ語の聖書の区分
 - 律法：創世記，出エジプト，レビ記，民数記，申命記
 - 前預言者：ヨシュア記，士師記，サムエル記，列王記
 - 後預言者：イザヤ，エレミヤ，エゼキエル，12預言者
 - 諸書：その他の書卷
- 旧約聖書全体の教えを完成するために来た！
 - 「一点一画も消え去らない」
 - ケース **x** ヘー **h**，ダーレス **d** レーシュ **r**，ベート **b** カーフ **k**
 - イエス様についての預言は全て実現した！



律法に適うとは

- 律法学者は、いつも律法に関することでイエス様を非難したり、追い詰めようとした
 - 「ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。」＜マタイ12:1＞
 - 「人々はイエスを訴えようと思って、安息日にこの人の病気をいやされるかどうか、注目していた。」＜マルコ3:2＞
 - 「ところで、わたしたちが皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」＜ルカ20:22＞
 - 「こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」＜ヨハネ8:5＞



律法学者にまさる義

- 片手の萎えた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、「安息日に病気を治すのは、律法で許されていますか」と尋ねた。そこで、イエスは言われた。「**あなたたちのうち、だれか羊を一匹持っていて、それが安息日に穴に落ちた場合、手で引き上げてやらない者がいるだろうか。人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。**」そしてその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、もう一方の手のように元どおり良くなった。＜12:10-13＞



何をしないかではなく何をするか

- 律法学者たちは、バビロン捕囚やその後の出来事を通して、律法を必死で守るようになった
 - 文字にこだわりすぎて、精神を忘れた！
- 律法学者たちは、「律法に抵触しない」ことが正しいこと（義）であるとした
 - 「何かをしないこと」がベストである
- イエス様は「律法を完成する」ことこそ正しいこと（義）であるとした
 - 「何かをすること」こそ大切である！



律法の文字ではなく、精神を守る

- 律法とは、神がユダヤ人に対して「守れば祝福」されると約束された教えである
- 律法の精神は「愛」(大切にすること)である
 - イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」＜マタイ22:37-40＞
- イエス様は律法の精神を守られた



律法学者に「まさる」義

- 「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」
- 「まさる」とは「豊か」という意味である
 - 「より厳密に守る」のではなく「より豊かに生かす」
- 何もせずただ律法を守っているだけでは、律法学者の義にまさらない。**律法**の**精神**(愛)を**実行**してこそ律法学者の義にまさることができる！